「新大分スタンダード」による主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導案（略案）例

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| ①学年・組 | | ②職名・授業者氏名 | | ③教科 | ④ペアでの  話合い活動 | ⑤グループでの  話合い活動 |
| １年１組 | | **日田　太郎** | | 英語 | 有 ・ 無 | 有 ・ 無 |
| ⑥単元名(題材名) | | Research on Australia (PROGRAM 7) | | | | |
| ⑦本時のねらい | | 自分の住む町にあるものや身近にあるものを  地域に関する情報や自分の考え、気持ちを整理することを通して、  英語で簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。 | | | | |
| ⑧本時の評価規準 | | 【知識・技能】書くこと  There～.の文の特徴やきまりを理解し、自分の町についての情報や自分の考えや気持ちなどをThere～.を用いて書いている。〔ノート〕 | | | | |
| ⑨  展開 | めあて | ○○先生の友だちに日田を楽しんでもらうためのパンフレットをつくろう。 | | | | |
|  | 課　題 |  | | | |
| 手立て | 「Ｃ:努力を要する」状況の生徒への手立て  ・There is～の文を理解することが難しい生徒には、インタラクションやペアでやりとりした内容や具体物を使って、人やものを表す表現に気づかせる。  ・教科書の本文中から人やもの存在を表す英文に気づかせ、それを参考に英文を書かせる。 | | | |
| 「特別な支援等の配慮を要する」生徒への手立て  ・文字を書くことが難しい生徒には、上記に加え、タブレットを使って文構造が変化する様子を示しながら理解させ、教科書を参考に英文を書かせる。 | | | |
| まとめ |  | | | |
| 振り返り | ・「～がある」と言いたいときはThere is～、There are～を使う。  ・ペアの相手がリアクションを返してくれたから、言いたいことが伝わったと思った。  ・次は日本や世界のおもしろい場所をみんなに紹介したい。 | | | | |
| PROGRAM 7 Research on Australia  ポイント  「～があります」と言うとき  There is a～.  There are～.  There are not～.  めあて　○○先生の友だちに日田を楽しんでもら  　　　　うためのパンフレットをつくろう。    ☺  There are supermarkets.  We can buy food.    How do you go there?  ☺  By bike. 振り返り  We also have a park. | | | | | | |